



## 奥久慈アートフィールド

2022年6月8日

大子町

東日本旅客鉄道株式会社水戸支社

秋の奥久慈 大子町をアート作品で彩ります

## 大子町 × JR東日本水戸支社「水郡線奥久慈アートフィールド」選出者決定！

大子町とJR東日本水戸支社は、水郡線の利用促進による大子町の地域活性化や交流人口の拡大を目的として「地域活性化連携協定」を締結しています。この取組みをさらに推進するために、水郡線駅舎や沿線、大子町全体を舞台にしたアート事業「水郡線奥久慈アートフィールド」の作品募集を行い、3名の選出者が決定しました。10月からの展示・設置期間に向け今後、大子町に滞在しながら作品制作を進めていきます。

### 1 水郡線奥久慈アートフィールド概要

- (1) 実施内容 水郡線駅舎や大子町内を舞台にしたアート作品の展示・設置
- (2) スケジュール 2022年 6月～10月 現地滞在・作品制作  
2022年 9月頃予定 作品詳細発表  
2022年10月～12月 展示・設置（12月撤去予定）

### 2 選出者



しどう

#### 私道かび

音による作品

水郡線を舞台にその土地の声を使った音声作品を制作します。劇作家として活動する私道かびが、地元の方にリサーチをした内容を元に、歴史や自然を題材に役者が演じる一人語りの台詞を書き起こし、駅の待合室内で「居合わせた誰かの声がたまたま聞こえて来た」という体感を目指します。

#### 審査会総評

駅舎内や車内での楽しい過ごし方を感じられる提案。作品づくりにおける住民とのワークショップ展開も新しい可能性を感じ、本プロジェクトの趣旨にあっている。



ふじむらのりゆき

#### 藤村憲之

光による作品

「都市が失った夜の闇」という空間資源を持つ奥久慈エリアで、闇を光の映える巨大空間と捉え「光」を使用した作品の公開制作・実験をします。滞在期間中は大子町の方々に公開実験として体験をしてもらい10月からの展示期間中には、公開実験した作品の再演も検討しています。

#### 審査会総評

「闇」をあえて「資源」と捉える視点の面白さを評価。作品鑑賞を通じたツアー、その他の観光資源との連動など、広がりを期待できるところも多い。



ちば まどか

#### 千葉麻十佳

展示による作品

海底火山の影響で生まれた男体山や、奥久慈温泉などもある、地球の活動とは切り離せない大子町の広大なフィールドで、太陽の光とレンズを使って石の一部を溶かし、地球という星の活動を体感する作品を制作します。駅舎への作品展示と、石のある現地とを繋ぐ仕掛も検討しています。

#### 審査会総評

今までの活動と大子町の自然環境との親和性が高く、作品がユニークな形で地域に残る可能性を評価。ロングトレイルなど大子町のアクティビティとの連携も期待できる。

### 3 審査会について

2022年5月27日(金)に、大子町役場庁舎内会議室にて最終審査会を実施しました。一次審査を通過した30件の作品から3名の選出者を決定しました。

審査会の様子



審査員（写真左から：大子町副町長・赤津康明、写真家・松本美枝子、水戸芸術館現代美術センター主任学芸員・井関悠、JR東日本水戸支社水郡線統括センター所長・渡部康二郎）



#### 【審査会総評コメント】

とても広い地域から多様な表現者の皆さまに関心を持っていただき、たくさんのご応募をいただきました。滞在する作家達は、水郡線や大子町をより深く理解し、地域の人々と交流し共同で制作していくその先にあるのが作品の発表となります。私達は作家達とコミュニケーションを取り、共同で制作していくつもりで進めていく、作家達が何をしたいかを一緒に考えていくことが大切になります。それらを地域に還元し、水郡線、大子町の魅力を伝えるために芸術を使って一緒に栄えていくことができれば幸いです。

### 4 本イベントの位置づけ

大子町とJR東日本水戸支社は「地域活性化連携協定」に基づく事業計画を進めています。本イベントはその一環として、大子町エリアを中心にアート作品の展示・設置を行う事業です。